

公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 28 年度第 3 回理事会議事録

1. 開催日時 平成 28 年 7 月 14 日 (木)
15 時 00 分から 18 時 30 分
2. 開催場所 東京大学理学部 3 号館 3 階 320 号室
(東京都文京区本郷 7-3-1)
3. 出席者 理事数 20 名
出席理事 16 名 (定足数 11 名 会議成立)
出席監事 2 名
オブザーバー 10 名
4. 議長 理事 川幡 穂高
5. 出席役員
理事 川幡 穂高
理事 津田 敏隆
理事 田近 英一
理事 古村 孝志
理事 井出 哲
理事 小口 高
理事 小口 千明
理事 奥村 晃史
理事 木村 学
理事 倉本 圭
理事 中村 昭子
理事 西 弘嗣
理事 浜野 洋三
理事 原田 尚美
理事 日比谷 紀之
理事 道林 克禎
監事 北里 洋
監事 氷見山 幸夫

6. 出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションプレジデント 高橋 幸弘
宇宙惑星科学セクションバイspreジデント 関 華奈子
大気水圏科学セクションプレジデント 蒲生 俊敬
大気水圏科学セクションバイspreジデント 佐藤 薫
地球人間圏科学セクションプレジデント 春山 成子
固体地球科学セクションプレジデント 大谷 栄治
固体地球科学セクションバイspreジデント 田中 聡
地球生命科学セクションプレジデント 遠藤 一佳
学協会長会議議長 坂本 尚義
2017年大会国内準備タスクフォース議長 末廣 潔

午後 15 時 00 分、理事の定数に足る出席があったので、会長川幡穂高は議長席に着き、理事会が成立することを宣言した。インターネット電話 Skype を利用し、遠隔地から参加する倉本圭理事、中村昭子理事（報告 8. (1-3) 以降に出席）、高橋幸弘セクションプレジデントが審議に確実に参加できることを互いに確認した。

今期最初の理事会であった前回理事会では、時間の都合上自己紹介を行えなかったため、あらためて今回、議事に先立ち出席者の自己紹介を行なった。

【前回議事録確認】

第 1 回理事会、定時社員総会、第 2 回理事会議事録について、確認し、了承された。

7. 審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件（古村孝志理事）

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。

第 2 号議案 賛助会員入会承認の件（古村孝志理事）

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。

第 3 号議案 委員会委員の承認の件（古村孝志理事）

環境災害対応委員会、広報普及委員会、情報システム委員会、大会運営委員会、ダイバーシティ推進委員会の新委員を資料の通り承認した。

第 4 号議案 男女共同参画学協会連絡会の第 4 回大規模アンケート承認の件

小口千明理事より、連合の会員を対象に男女共同参画学協会連絡会の第4回大規模アンケートを行う件について説明があった。web ページに載せるなど、アンケートをとることが承認された。

第5号議案 若手科学者ネットワークへの参加承認の件

小口千明理事より、日本学術会議の若手アカデミーの概要について紹介があり、参加することが承認された。

当該ネットワークにおいては「若手」という用語の定義は45歳以下とされている。研究者の多様なキャリアを包含できるような検討を提案してほしいとの議論があった。

第6号議案 ORCID 利用の経費について

小口高理事より2016年度よりORCIDのBasic Membership(年間4,000米ドル)に加入することについて説明があり、承認された。

第7号議案 地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会への会員登録について

古村総務担当理事より、地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会への会員登録に関して説明があり、承認された。連合からの出席担当者については代表クラスの出席が必要かどうか古村理事から当協議会へ確認の上、今後、関係の近いセクション、委員会等の中から検討し適任者を決めることとした。

8. 報告事項

(1) 川幡穂高代表理事職務報告

(1-1) 新会長から連合理事担当委員会一覧をもとに新担当の紹介があった。環境災害対応委員会の奥村晃史担当理事より、同委員会で未定の副担当理事を井出哲理事にお願いしたいとの意向が伝えられ、了承された。

また、グローバル戦略委員会の副委員長としてウォリスサイモン理事に決定された旨、報告があった。

(1-2) 大会参加者トラブル防止策について

木村理事より2016年大会「International Mixer luncheon」でのトラブルの経緯の説明があり今後の対応が議論された。

対応する段階としては、①登録以前、②会場での入場、③会場内での3段階があるものの、①、②の段階で対応するのは難しく、③のケースについて、2017年大会までに対策を慎重に検討し、トラブル対応へのマニュアルを作成することとした。

(1-3) 連合からもブースの出展をしていた Goldschmidt conference について以下の内容で報告された。

6月26日～7月1日の日程で、パシフィコ横浜を会場に開催されたゴールドシュミット会議2016では、30を超える国内外の組織より共催、後援、協賛の枠組みで、ご支援とご協力をいただき、感謝している旨の手紙が日本地球化学会本会長とLOC代表(ゴールドシュミット会議2016組織委員会)益田会長から近日中に届くことが川幡会長より報告された(後日、7月25日に受け取り)。内容としては、ゴールドシュミット会議は、米国とヨーロッパの地球化学会が毎年開催しているものであるが、米国からの日本地球化学会への要請により開催が決定され、LOCが組織され3年間にわたり、隔月のLOCの会議をこなし、準備を経て開催された。69カ国より、4千人の参加者(ゴールドシュミット会議の歴代2番目の参加者数)があり、科学発表のレベルも高く、学術講演会も最終日まで活発な議論がなされた、なお、JpGUの職員も大会を見学し、来年のAGUの共同開催も含めて大会運営の一層の質の向上を目指す予定である。

(2) 田近英一理事(広報担当)職務報告

田近理事より、2016年大会でのNASAハイパーウォールを用いて平日に開催されたアウトリーチ活動について説明があり、来年度以降も、JpGUとしてNASAの活動に協力すること、具体的には広報普及委員会が担当することが報告された。

(3) 中村正人理事(顕彰担当)職務報告(中村昭子理事代理報告)

中村昭子理事より、学生優秀発表賞受賞者発表について報告があった。

受賞者への通知の際に、来年度の大会において「International Mixer luncheon」に受賞者を招待する旨を通知することとなった。通知文については、グローバル委員会で承認されたものを原則として用いる。

道林理事より「固体地球科学セクションボードの審査員側から、学生賞の審査希望者数が多くなり、審査が年々負担になっている。」との現状報告があった。

朝日新聞社より朝日賞の推薦依頼があったことが報告された。この件については連合のメールニュース等にて案内し、会員から広く募ることとした。

(4) 古村孝志理事(総務担当)職務報告

(4-1) 前回理事会以降に連合が承認した協賛・後援、発行したサポートレターについて報告があった。氷見山監事より、連合の共催・協賛・後援活動について、より一層活用していく(広く知っていただく)ことが良いのではないかという意見があり、この件については、次回、学協会長会議および定時社員総会で連合の活動の一つとして伝えることが確認された。

(4-2) 前回理事会で承認され津田会長名義で発出した、文部科学大臣宛の京大火山研究センターの支援依頼文書について、発出後、支援されることが決まったとの報告があった。

(4-3) 三宅賞の JpGU への移行について情報交換および検討開始の報告があり、蒲生俊敬大気水圏科学セクションプレジデントも含めて肯定的な意見が表明された。連絡会を設置し、基本的に西田賞の規則を参考に準備していくことが了承された。委員会は、JpGU 側より 4 名程度（川幡穂高会長、古村孝志理事、西弘嗣理事、中村昭子理事）、地球化学研究協会より 4 名程度で構成される予定である。

(4-4) 学術会議理工学連絡会議

6 月に開催された、第 6 回理学、工学系学協会連絡協議会の報告があった。

(5) 北和之理事報告（財務担当）職務報告（井出哲理事代理報告）

井出理事より 2016 年大会収支についての説明があり、2016 年大会期間中に募集した熊本震災義援金について 246,734 円が集まり、これを熊本県の義援金口座に送付した旨、報告があった。

(6) 川幡理事・倉本理事（ジャーナル担当）職務報告

倉本理事より、論文投稿・出版状況の報告、H28 年 5 月 22 日に開催された、第 5 回ジャーナル編集委員会の報告、H28 年 6 月 13 日に開催された第 2 回編集長会議開催について報告があった。

川幡理事より Thomson Reuter への登録の件、および総論（Review article）の促進に関する会員への一斉メールについて報告があった。

(7) 木村学理事（グローバル戦略担当）職務報告

前回理事会以降の活動状況と活動方針の報告があった。

木村理事より、連合の mission statement（連合の目指すもの）の見直しについて提案があった。現行の文章と改定案の文章が提示されたが、内容については今後、Facebook 等を通じてオープンな議論をし、次期理事会が開催される 9 月下旬までに議論し、詰めた案を準備することとなった。また、学会も含めた海外の組織との交流などの促進を検討する WG を設置することとなった。

(8) 浜野洋三理事（大会運営担当）職務報告

2016 年大会についてセッション数、参加者数、団体展示、書籍出版などの出展数について報告された。

これまでの参加者数の推移が説明され、2017年大会においては投稿数5000件を目標にする。

2017年大会はJpGU-AGU Joint MeetingとしてAGUとの共同開催となり、千葉県幕張メッセにて、2017年5月20日（土）～25（木）、2016年大会より1日長い6日間開催され、会場の規模も大きくなることが報告された。

（9）教育検討委員会活動報告

西弘嗣理事より、教育検討委員会の活動について報告があった。

教育検討委員会の委員長は畠山氏に決定したことが報告された。

5月22日（日）に開催された教育検討委員会の報告があり、次期高等学校学習指導要領での地学に関する科目の内容について高等学校「理科」の基礎が付された全4科目必須化に関する提言を9月までにまとめたので、8月中にJpGUが考える内容に関する提言を出したい旨を確認した。

また、AGIとのイベントを教育検討委員会とグローバル委員会で開催することが検討されているとの報告があった。

また、今期には大学および大学院教育についても、さらに議論が進むよう期待が表明された。

（10）ダイバーシティ推進委員会活動報告

小口千明理事より、平成28年度「女子中高生夏の学校2016～科学・技術・人との出会い～（夏学）」共催について、申請内容の説明があった。

（11）情報システム委員会活動報告

第6号議案で審議した通り、ORCID導入についての検討状況報告があった。

（12）JpGU2017年大会準備タスクフォース報告

末廣TF主査より、前々回第1回理事会以降の活動状況と活動方針について報告があった。2017年のAGUとのJoint Meetingへ向けて今月AGU担当者と打合せを行う予定である。その際に、AGUとJpGUとの学生賞の規則の違い等を含め2017年にどのように共催するかをすり合わせる予定との報告があった。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。（18時35分）

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席役員は次に記名・押印する。（捺印欄配布時省略）

平成28年7月14日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第3回理事会

出席理事	川幡	穂高	印
出席理事	津田	敏隆	印
出席理事	田近	英一	印
出席理事	古村	孝志	印
出席理事	井出	哲	印
出席理事	小口	高	印
出席理事	小口	千明	印
出席理事	奥村	晃史	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	倉本	圭	印
出席理事	中村	昭子	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	浜野	洋三	印
出席理事	原田	尚美	印
出席理事	日比谷	紀之	印
出席理事	道林	克禎	印
出席監事	北里	洋	印
出席監事	氷見山	幸夫	印